

筑後地方切手のつどい 2019 雑感

橋本たねひろ

平成 31 年 9 月 29 日開会前に生涯学習センターに到着、21 回目を迎える当つどいが、10 時 30 分小郡支部伊藤氏の司会で、松井小郡支部長挨拶に始まり、小郡郵便局長大石氏の来賓挨拶に続いて、九州・沖縄地方本部長伊藤氏による講演「体験的現行切手蒐集」が行われた。

講師の指摘で初めて気付かされたことは、1947 年出現の第三次昭和切手 30 銭から 1950 年発行の動植物国宝図案切手 24 円までたった 3 年であることで、この間新昭和、産業図案、昭和すかしなが発行されているので、長い間のように実は 3 年間なのである。

講師の収集方法は、郵便局で買う、オークション利用、郵頼、もらう、そして作るとあらゆる努力を不断に行っていることで、その姿勢は参考にするべきであろう。

後に御三家となる 30 円金色堂、40 円陽明門、70 円能面カラーマークなども郵便局で購入したものだそうで、満月印とともに収められている。ペルシャ湾掃海派遣の自衛隊には知人を通じて消印を集めているし、昭和 57 年 5 月 31 日が航空小包の最終日であり、試行印の初日であることに気づき、同エンタを作成するなど、注意を怠らない姿勢に感心する。

お楽しみ抽選会では当支部から 2 名が当選したことは、当支部参加者 4 名であることを考えるとかなり効率よく頂いたものと思う。

展示されていた作品は、中島氏の「九州の航空郵便」以下 3 点である。

14 時から、約 40 人が席に着き、盆回し切手交換会が始まり、幸い数点を入手でき、満足の日であった。

他支部の皆さんとは、スタンプショーはかたでの再会を約して別れたが、当支部からの参加者は、吉賀、橋本久義、齊藤、そして私の 4 名であった。